

No. 1011

ハイセイコー敗れる

—第40回日本ダービー—

第40回、日本ダービーは快晴の5月27日、13万3千の観衆を集めた府中の東京競馬場で行なわれました。27頭が出走、距離2400メートル、レースは史上最高の人気を集め「95%は勝つ」と予想されたハイセイコー一点に選ばれました。

直線300メートルでトップに立ったハイセイコーに、タケホープ、イチフジサミが追い込み、結局タケホープがイチフジサミに一馬身 $\frac{1}{2}$ の差をつけ、2分27秒8のダービー・レコードで快勝。

ハイセイコー増沢騎手は

「きょうはいつもに比べて、パドックでの気合いがネコのようにおとなしかった。レースでは2度程はさまたが、あれは仕方がない。完全に負けました。」と青ざめた表情。

ハイセイコーのV11とさつき賞に続く2冠は一瞬の夢に終わりました。

尾瀬に生きる

沼の水もゆるみ雪溶けの湿原にミズバショウが顔をみせはじめた尾瀬。尾瀬のシーズンが始まると共に今年もまた仕事を棄てて多くの若者達が山小屋で働きはじめた。山の夜明けと共に起きて働く若者達。決して楽ではない山小屋の仕事だが、ほんとに楽しそう。3年前に昭和電工を退社して長蔵小屋にやってきた宮原久治君。

「アルミ電化をやって、ガスを吸うと身体が少しずつ悪くなっていく。これではと考え出して、体が悪くなりかける前にやめた。自然の中で生きて今後の自分にプラスになる事ばかり、一生ここで暮らしたい。」

また幼稚園の先生をやめてここにやってきた水沢紀美さん。

「人間の生活からは自然はとりのぞけない。花の名前も知らないで有つ都会の子供達をみていると悲しい。下山して幼稚園に戻る事があったら自然の豊かさを教えたい。」

昭和42年開発という名のもとに尾瀬自動車道が計画され、工事は進められた。しかし今は亡き平野長靖さんらの強い運動で、当時の大石環境庁長官の現地視察後、工事はストップされた。しかし、現在、三平峠の真下岩清水まで工事は進められ、一の瀬に駐車場をつくる計画が再燃しようとしている。

5月27日、尾瀬の自然を破壊から守ろうと現地集會が開かれた。尾瀬の自然保護運動の旗手だった亡き平野長靖さんの父親長英さんは訴えた。

「理論以前の尾瀬を愛する気持ちから出発しているんです。54年尾瀬に生きずく自然の動物と同じように自分を感じる時がある。忘れられつつある人と人とのふれあいの場としての意味でも、峠道は残されねばならない。」

一年を通じて美しい四季の変化をみせてくれる尾瀬の自然。

この尾瀬の自然を守るのも破壊するのも人間なのだ。